

循環器内科専門医バイブル 1

心不全

—識る・診る・治す

小室一成／総編集・専門編集



B5 判 384 頁 4 色刷
定価：本体 12,000 円＋税
2018 年 3 月 中山書店刊

評者 小川久雄 国立循環器病研究センター理事長

世界でもトップレベルの長寿社会に入った日本では、今後医療問題が益々大きな課題となってくる。そして医療費という点からは、日本では循環器系疾患が 20% と最も高い割合を占めている現状がある。なかでも心不全の増加が顕著であり「心不全パンデミック」と呼ばれるようになってきた。日本循環器学会では全国に 1,353 施設あるすべての循環器専門施設と協力施設 212 施設の合計 1,565 施設から循環器疾患診療実態調査 The Japanese Registry Of All cardiac and vascular Diseases (JROAD) を行い、2012 年からは心不全患者の入院数も調査し 21 万人から 2016 年には 26 万人となっている。増加の程度は著明で今後もさらに増え続けると思われる。これは日本のみならず世界的な傾向でもある。

これに対して、日本循環器学会と日本心不全学会は関連 11 学会とともに「急性・慢性心不全診療ガイドライン（2017 年改訂版）」を作成した。このなかには心不全の一般の方への啓発活動として、分かりやすい表現で「心不全とは、心臓が悪いため、息切れやむくみが起こり、だんだん悪くなり、生命を縮める病気」と定義されている。さらに日本循環器学会では日本脳卒中学会、さらに関連 19 学会と協力して「脳卒中と循環器病克服 5 年計画」を策定し発表した。このなかでも心不全に注目し

ている。特に予防の重要性も記載している。

本書は「循環器内科専門医バイブル」シリーズの第 1 巻「心不全—識る・診る・治す」として発刊された。シリーズ総編集、「心不全」専門編集とも小室一成東京大学循環器内科教授が行っている。先生は現在日本循環器学会代表理事でもあり、心不全をライフワークとして研究されてきた。そのネットワークを活用して素晴らしい執筆者を選ばれている。心不全の全体像や基礎研究からはじまり診断、治療、治療薬やデバイスの一歩進んだ使い方・使いこなし方、様々な病態に応じた治療、さらに今後の新しい治療薬と治療法に関して、非常に詳細にかつ分かりやすく記載されている。

心不全は病因が多岐に渡り、病態も様々である。治療も効果的な薬剤やデバイスが多く、その選択も重要である。救急疾患としても多いが慢性疾患としても重要である。さらに最適な治療は何か、根本的な治療法は、と聞かれて明確に答えられない場合もある。本書は図や写真もふんだんに使われ、循環器専門医のみならず、専門医を目指す若い医師、さらには一般医にも理解できる内容となっており、現時点で伝えるべき最新の内容も盛り込まれている。読者の方の心不全の理解、診断や治療に役立つ教科書といえる。ご活用を切にお願いする次第である。